金沢杉を日本へ！

K- 6

金沢杉酒樽

AA.Co-6　森實 駿介、髙橋 涼太、森 光里、門丹生 直也、高杉 宗治

金沢杉の現状

・植林データ収集・管理等の機械化が進んでいない
・間伐が進まないことにより荒れている

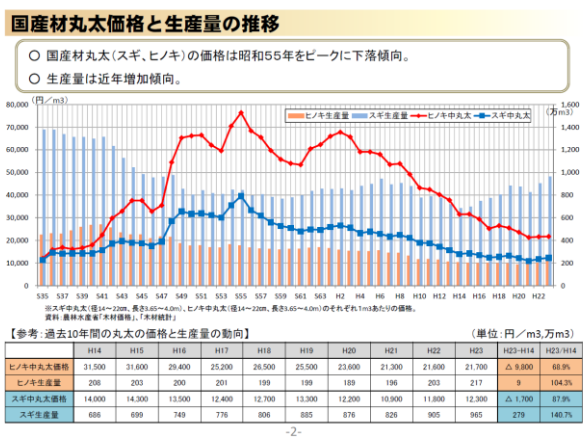
問題

・金沢の木材価値が低い

原因

・建築用材以外の使い道がない

木材の価格



	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H23-H14	H23/H14
ヒノキ中丸太価格	31,500	31,600	29,400	25,200	26,500	25,500	23,600	21,300	21,600	21,700	△ 9,800	68.9%
ヒノキ生産量	208	203	200	201	199	199	189	196	203	217	9	104.3%
スギ中丸太価格	14,000	14,300	13,500	12,400	12,700	13,300	12,200	10,900	11,800	12,300	△ 1,700	87.9%
スギ生産量	686	699	749	776	806	885	876	826	905	965	279	140.7%

・現在の金沢の木材1本あたりの価値

・樹高20mくらいの杉で1本

→約1000円

木材・森林現状

・杉が約9割を占めている。
・特徴が無い。
・戦後木材が多く必要になり、国内だけでは足りなくなった。外国の材質の優れた木材が安く入ってくるようになり、スギ材の価値が低くなった。

Concept

金沢杉を使用した工芸品での木材価値の向上！

Existing measures

・吉野杉の酒樽が有名

ふしがない…細い木のうちから枝を落とすことでふしを無くしている。

年輪が緻密で頑丈…木の根元から上まで直径が同じになるように、密度を高く苗木を植え、あえて成長を妨げる。そして、育ちの悪い木を間伐することで実現している。

白線体…水に強い。白線体は吉野杉が特別多いわけではなく、一般的なスギと変わらない。白線体の部分を利用することで酒樽として機能するため、金沢でも活用できる。

木材の価値
奈良県には100年～200年くらいの大きなスギが多くある。他のスギとの価値を比べると、例えば50年ほどのスギでは、芯持ち材しか使えないとしても、200年のスギは1本からとれる、利用できる木材の量が圧倒的に多い。

Research・Conditions

現在の金沢では間伐が進んでいないため吉野杉のような条件は現在は揃わない。
　白線帯だけが条件として揃っているため吉野杉のような大きさの酒樽は作れない。

金沢特有のものを利用して唯一無二を作る。

Proposal

お見上げ用ミニ酒樽

・サイズを小さくすることで節を外すことができる。

・お見上げにすることで、金沢の中だけでなく日本全国に金沢杉の名を広めることができる。

・若い木でも作ることができる。

・金沢の地酒、金箔と一緒に仕上げることで、金沢の特徴も付加できる。